



徳川家康の章

豊臣秀吉の没後、日本最大の、東西を分けた慶長五年(西暦1600年)の関ヶ原の合戦に勝利し、さらに豊臣家の残党を元和元年(西暦1615年)の大坂夏の陣において一掃した家康は、大坂城の落城後、すぐに武家諸法度と公家諸法度を発令した。これによって事実上江戸幕府は確立し、平和の世が築かれようとしていた。

ソーサリアンが真田幸村の里から戻ってしばらくの後、徳川家康から江戸へくるよう、一通の書状が届けられた。さっそく旅じたくを始めるソーサリアンであったが、エティスは浮かぬ顔をしている。微弱ではあるが、江戸の城から魔の気配を感じるというのだ。「もしかするとワナかもしれないぞ!」。まさか、こんな平和の世に魔が現われるとは考えにくいだが、これは偉大なるエティスの言葉なのだ! ソーサリアンたちは、その忠告を胸に刻み込んで、家康の待つ江戸城へと向っていった……。

登場人物



徳川家康(1542-1616)

三河の小大名、松平広忠の長男として生まれ、幼年時代は駿河の今川氏の人質として過したが、桶狭間の戦いを機に独立。以後織田信長と同盟して三河、遠江、駿河を領有、さらに本能寺の変後は、関東に移って二百五十万石の大大名となる。豊臣秀吉の死後は、天下分け目の関ヶ原の戦いに勝利し、将軍となって江戸幕府を開いた。



徳川秀忠

家康の次子。関ヶ原の戦いの折、進軍途中で信州上田城の真田父子に釘付けにされ、参戦できなかった。後に、二代将軍となる。



政四郎

秀忠に仕える忍者で、江戸城の警護役、お庭番という要職にある。



敵モンスター



あんこくしん ジャキ 暗黒神 邪鬼

暗黒神邪鬼という名前からもわかるように、災厄の元凶の神である。現われたり、消えたりしながら、扇子を飛ばして攻撃してくるうえに、この扇子がふたつ以上出ているときは下にはおりてこず、強力な雷を発する。できるだけ早く扇子を叩き落とし、低い位置に現われたところを剣で叩く、という攻撃を心がけよう。20回叩けば、倒すことができるぞ。